

「少子高齢化」  
の課題に  
直面して

## 聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院（旭区）

1987年5月にオープンした聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院は、市の西部医療圏の中核として地域医療を支え、救急や災害医療の拠点病院として、また大学の教育病院としての役割も担っています。現在、市内で最も高齢化率と人口の減少率が高い西部地区の中核病院は今後、どうあるべきか。新たな方向性を模索する田口芳雄院長に話を聞きました。

### 聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院

旭区矢指町1197-1  
電話045-366-1111(代表)  
FAX045-366-1182  
ウェブサイト  
http://www.marianna-u.ac.jp/

◎設立 1987年5月  
◎病床数 518床  
(うちICU10床、HCU30床、NICU9床、CCU4床)  
◎診療科目 総合診療内科、腎臓・高血圧内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、代謝・内分泌内科、神経内科、血液内科、リウマチ・膠原病内科、神経精神科、小児科、消化器・一般外科、心臓血管外科、小児外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、健康管理部(人間ドック)



聖マリアンナ医科大学  
横浜市西部病院  
院長 田口 芳雄

#### 三次救急と周産期センター

当院の理念は「『生命の尊厳』を重んじ、常に病める人の声に耳を傾け、癒すこと」であり、約150人の医師・研修医と500人の看護職など、全職員が「丸」となっており、患者さんと病院の発展に力を尽くしています。旭区の緑濃い自然環境の中に建設された当院の特色は、横浜市の「三次救命救急センター」と神奈



救急車で運ばれて来た患者を受け入れ処置する(救急救命センター)

川県の「周産期センター」基幹病院に指定されていることで、2014年4月、(財)日本医療機能評価機構から最新の基準に基づく病院として認定されました。開院当初から救急車で搬送された患者さんや、一次・二次救急から転送される重篤な患者さんを治療してきた救命救急センターは、ICU10床とHCU30床の救急外来と入院病床で構成され、24時間365日の救急体制を整えています。そして、大規模災害の発生時には拠点病院として傷病者の受け入れや医療救護チーム(DMAT)の派遣を行うとともに、

#### あらゆる分娩に対応

一方、神奈川県初の大規模な施設としてスタートした周産期センターでは、産婦人科と小児科の垣根を越えるチーム医療を実践。「自然分娩」と「完全母子同室」「母乳栄養の推進」を基本方針とし、地域の母と子の安全・

安心のために努力を重ねています。とくに、早産で生まれた赤ちゃんや入院が必要な赤ちゃんの治療を行う新生児部門は、NICU(新生児集中治療室)9床とCCU(新生児治療室)4床を整備し、専門の小児科医が24時間体制で勤務しています。近年は年間約200人の赤ちゃんがNICUに入院し、そのうち約30人が体重1kg未満ですが、赤ちゃんへの優しいケアをモットーに治療や看護に当たり、母乳による育児がスムーズに行えるよう指導しています。産婦人科のベッド数は約50床で、周産期の救命救急やハイリスク妊娠への対応を行う当院では普通分娩はもちろん、あらゆる分娩に対応致します。所定の手続きを経て、十分に理解を深めたご家族

の「立ち会い分娩」も可能です。加えて、当院では2年前に小児科病棟に「こどもセンター」を新設し、小児科と脳神経外科、形成外科などの医師が協力して、NICUを退院した乳児や幼児の治療を継続することが可能になりました。乳児の「レスパイト(短期)入院」も受け入れる体制を整備し、退院後のご家族の負担を軽減する努力を続けています。

#### 中・軽症患者や普通分娩にも

その結果、当院は多胎の妊婦や病気の新生児が入院する病院だというイメージが定着し、最近の「予防医療」の進歩も相俟って産婦人科や小児科の入院患者が減っています。同様なことは救命救急センターの活動にも当てはまり、三次救急の対象である重症の患者さんを中心



陣痛が強くなっている妊婦に、助産師が介添え(周産期センター)

中心に受け入れてきたため、救急病床の稼働率は平均して7割程度で、一次・二次救急のようには杯になることはありません。そこで開院30周年の節目を過ぎた現在、若く優秀な医師やスタッフが十分揃っている、今後は重症の患者さんに限らず、中・軽症の患者さんや普通分娩の妊婦さんにも来ていただけるような病院にしたいと考えています。それによって、横浜

#### 「病診連携」と包括ケアを推進

日本は今、急速な「少子高齢社会」を迎えており、当院が位置する旭区は、市内でも高齢化率と人口の減少率が高く、難病の患者さんが多い地域として知られています。これに対処するため、当院の循環器内科と心臓血管外科が各部門と連携して診察する「心臓血管センター」では、冠動脈疾患はもとより特に不整脈治療に力を入れています。同センターの入院病床の

稼働率は90%以上に達しているため、今後はさらに増床して重症の患者さんだけでなく、中等症の患者さんへの対応も強化していきたいと思っています。そして、退院後の患者さんに快適な予後を過ごしていただくため、昨年3月に療養期病棟を持つ近隣の「湘南泉病院」と医療連携協定を結んだように、西部地区の「病診連携」を推進しながら高度で総合的な医療を進めていきます。また、当院では、かつて、7・1看護基準の適用で看護師不足に陥り、1病棟を休止せざるを得ませんでした。早急な再開を心がけてまいりましたが、この度、地域包括ケア病棟としてであれば再開可能な目的が立ちましたので計画中です。計画が実行されれば、\*1ポストアキュートのみならず、この地域に多い神経難病の患者さん

の\*3レスパイト入院なども考えています。なぜ、地域の中核病院がそれをするのかというご意見もあるでしょうが、私は、横浜市の中核病院はそれぞれの地域の特性に応じて独自の機能を持つていいのではないかと考えています。いずれにしても、日本全体が急速な少子高齢化という課題に直面している現在、当院は横浜市の地域医療構想に基づき、解決すべきことは早急に解決し、継続すべきことはより良くという心構えで取り組んでいきたいと思っています。今後とも行政をはじめ、地域の皆様方のご指導とご助言を心からお願ひ申し上げます。\*1ポストアキュート…急性期を過ぎた患者さんで、次のステップに移行すべき状態。\*2サブアキュート…亜急性期の患者さん。急性期病棟に入院するほどではないが入院治療を要する患者さん。\*3レスパイト…もともとの意味は猶予、あるいは休息。具体的には重症患者さんの在宅治療を手助けするための一時的入院。